
あま、てらす！

すていつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あま、てらす！

【Zコード】

Z5261BA

【作者名】

すていつ

【あらすじ】

今から20年前、人類は神に挑んだ。休暇中であった神は人類の前に敗れ、その力は世界中に散らばってしまった。“神下ろし”と呼ばれる大事件である

その“神下ろし”的結果、神憑と呼ばれる神の力の一部を内包した人間が6人誕生した

これは、神憑の1人である白野クロノ君（18）が他の神憑の仲間と共に神を蘇らせる為の物語である

そして、作者は女装っ子好きの厨二病である

プロローグ1・1（前書き）

拙い文章ですがよろしくおねがえします

プロローグ1・1

今から20年前、人類は神に挑んだ。休暇中であつた神は人類の前に敗れ、その力は世界中に散らばってしまった。こんなことは子供だって知っていることだ

“神下ろし”と呼ばれるこの出来事は世界を大きく変えることになつた

まあ大きく変わつたとは言つても世界の支配者が神様から人間に変わつたって事と、神憑かみつきと呼ばれる散らばつた神様の力を内包した人間が何人か誕生したって事以外は“神下ろし”以前と何も変わってないって話だ

「あ」

「どうした？」

隣を歩いていた少女、幸花杏子さちななぎょうに目を向けた

「いや、家の鍵かけ忘れたなーっと」

「お前馬鹿なの！？ もう出発してから半日は経つてるからね？！
うわー！ どうするんだよー！」

「まあ焦るな童貞。どうせ盗られて困る物なんか無かつたよ」

「ああ、まあ確かに」

旅に出る際に必要な物以外は全部処分したし

「……ってかお前今せりげなく俺を中傷しなかつた？」

「なんなら後で隣の家のおばさんに鍵の場所を教えて掛けておいて
貰おうじゃないか」

「ああ。それがいい」

多少の中傷など気にしないのが俺である

「んなことよつ。やひやひ寝よ」

「へへ。やっぱ一晩して宿を見つけるのは不可能だったが

杏子が口惜しそうに呟いた

適当に眠れそうな場所を探して一軒の廃屋に入つてみると

「おやおやおや？ お嬢さん達。こんな時間に2人つきりでこんな
暗がりに入つてきちゃうのは感心しないなあ」

「そんなんだとおじさん達みたいな悪い奴らに酷い事をねちやうぜ
？」

「金は持つて無さうだが2人とも上玉だなあ。ツイてるなあおい

屈強な盗賊達に囲まれていた

「クロノ」

めんどくさそうに杏子が俺を見た

「……あー。あんた達。言つておくが俺は男だ」

「男お？ そういう話つておけば助かるとも思つてんのか？」

「艦ないかじりやシな艦をつねま」

まあ確かにこんな格好してたんじや嘘だと思われても仕方ないか

まあ信じなくてもいいや。それよりも今田はここでいいか?

杏子に尋ねる

「んー。まあ及第点」

「おいおい。なんで俺たちのことがアウト・オブ・眼中なんだよ」

「俺達と寝るつてことはじめね？」

「大胆発言いたしましたーーー！」

תְּרֵבָה וְעַדְמָה

「あ、楽しそうなところ悪いけど邪魔だからあんた等出て行ってくれないか？」

「こんな犬小屋みたいにせまいのにあんた達みたいなムサイのがこんなにいたんじゃストレスがマツハ」

「犬小屋だと！？ 僕たちの根城を犬小屋だと！？」

「おい、ムサイだつてよ。どんまい」

「お前の方がムセーよ！」

「お嬢ちゃん達。俺達をなめてるのか？」

「あんまり調子に乗つてると……殺すぞ」

盗賊達はそれぞれの持つ凶器を取り出した

「殺されたくなかったら大人しくしてな」

いつも思うのだが、こういう状況で怯えたりしてないって時点で相手が普通の人間じゃないつて気付けないのでどうか

無理だから盗賊なんてやつてんのか

「私がやろうつか？」

「いいや、俺がやろう」

何もない右手に念じる。今日はバツ=ズーカ君三世にしてよう

「ん？ ……えつ？」

盗賊の1人が素つ頓狂な声を上げた

「ななななな！ なんだよあれ！」

「あん?
何のこと... 何あれえええええ!?

「バツ」にそんなもん隠し持つてやがった！？

盗賊達は俺の持つ武器。バツ＝ズー君三世を見て腰を抜かした

「いや、別に隠してたんじやなくて、あれだ……うーん」

なんと説明すべきか

「簡単と言ひど
えもん」

「「「訳わかんねーよ！」」」

的確な突っ込みである

「まあいいじゃんか。とつあんずたよな！」

チュドーンとバツィズー！カ君三世の発射口から砲弾が飛び出した

「おー。飛んでく飛んでく」パチパチ

杏子の拍手と共に、彼らは星になつた

「お疲れ、ズーカ君」

バツ＝ズーカ君三世は俺が手を離すのと同時に光の粒子となつた

「「寝床！ GETだぜ！」」

杏子とハイタッチを交した

プロローグ1・2

「もつ寝るか？」

「……」スピー

もう寝てた

さて、じゃあ暇になつたのでここで少しばかり俺の自慢話と愚痴を聞いていただきたい

まず、何を隠そう俺は神憑かみつきである。俺が内包しているのは神の遺産アーティファクトを好きな時に呼び出し、自在に操れるという力。まあほほ無敵の能力である。俺の鼻も高々かみつきという訳だ。自慢話はこれで終わり

続いて愚痴を少々。まず、この神憑かみつきというのは本来、女性にしか現れない現象なのだそうだ。それはこの世界にかつて君臨していた神様は人間でいうところの女性、つまりは女神様かみつきだったかららしいなのにも関わらず、正真正銘男の俺に、この神憑かみつきが現れた。つまり、俺は特別な存在なんじゃね？とか思ってはいけない。なんとこの力、男らしい格好をしていると一切機能しないのだ

つまり、何が言いたいのかつていうのは、俺は年中女装しているけど、決してそんな趣味は無いって事だ。さつきの盗賊達の視線を思い出すだけで3回は嘔吐かみつきできる

後、もう一つ。愚痴を少々つて割には既に自慢話の3倍以上行数つかつてるじゃねーかとか野暮な突っ込みは止していただきたい

この神憑かみつきという現象、良い所ばかりじゃないのである

大いなる力には大いなる犠牲が必要だ。って偉い人が言っているように、俺もこの力を持っているが為に犠牲を支払っている

それが嫌で嫌でしようがないから今回、同じ神憑仲間かみつきフレンドである杏子を連れて神様を蘇らせる為の旅に出たのだ

ちなみに犠牲にしている物は恥ずかしいのでお話することはできない。内緒の秘密って奴だ

「寝ないの？ 機能不全童貞」

まさかの横槍によつて俺の内緒の秘密がたつたの1行でバレた。とても悔しい

「寝るわ！ 今すぐ寝てやるわノノヤロー！」

「はて？ 何に怒つているのか。機能を失った自分の息子に対して？」

「もういいから寝てくださいホントに」

この女は不謹慎にも程があるだろ

「あいわかった」

この日、俺は絶対に神様を復活させないと心に誓つたのだった

「ふあああ」「ムクリ

「おはよつ。クロノ。朝立ちは大丈夫？」

「俺はなぜお前にここまでバカにされているのか分からん

「バカになんかしてない。愛してる？」

「る？ ジヤねーよ

「こいつとは幼少の頃からの付き合いだが未だにキャラが把握できていない

「まあ今日こそは街に迷っちゃう

「頑張るつね。女装紳士」

「適度に俺をおちよへるよね君

「おちよへつてない。愛してるー……？」

「うわっ、いきなり大声だすなよ。しかも結局最後“？”で締めち
やつたよ」

“？”締めの杏子と呼ばれている私だ

「初耳だわそんなん」

なんだ“？”締めつて

「ヤー出発ー」

「はいはー」

こうして俺達は最初の目的地であるチーッバといつ街に向か歩き出した

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5261ba/>

あま、てらす！

2012年1月14日17時45分発行